小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　　総括表

法人名	社会医療法人松涛会	代表者	斎藤　妙子
事業所名	小規模多機能 ケアタウン山の田	管理者	西村　裕太

法人・事業所の特徴	小規模多機能ケアタウン山の田は地域包括ケアの考えをベースに作られた複合施設の中にあり、内科、リハビリセンター、グループホーム、コンビニ、サービス付き高齢者向け住宅と共に1つの地域を創り上げています。利用者個々の生活のペースを大切にし、地域の中でその人らしく生きる為の支援を行っています。自治会活動に参加し、近隣の方々やボランティアの訪問も受け入れ、地域と共に歩むことを目指しています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	1人	1人	人	2人	1人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	事業所自己評価を主体的に行える職員を育てることを前提とし、年間通して事業所改善に積極的に関わることができる。	今年度は事業所長の異動に加え、職員の異動も多かった。前年度から残っている職員は5名と半数以上は新たなメンバーで仕事をしてきた。職員を育てるというところに関しては、まず、利用者のこと、仕事を覚えることで精一杯だった面があるが、事業所改善という観点からは新たな意見が多くあり、活性化できた。	今年度は感染症に対する規制も緩和され、運営推進会議がほぼ予定通り開催することができた。完全に出入りができるようになっているわけではない為、事業所に関わることが限られ、実際の部分に関しては分からないことが多かった。	今年度は職員の入れ替わりも多くあり、今までの事業所での問題点を職員間で話し合いながら新たな意見を元に、活性化することができた。来年度は、より職員間の連携を図り、事業所の方向性を明確にし、利用者、家族、外部の方に分かって頂けるよう努力したい。
B．事業所のしつらえ・環境	運営推進会議、オレンジカフェが再開されたら、地域の方に小規模に立ち寄って頂くようにする。利用者様が生活されている様子を見て頂き、環境等についても理解して頂く。	運営推進会議、オレンジカフェについては今年度から再開されているが、コロナウイルス感染症などが完全になくなったわけではなく、積極的に事業所に立ち寄って頂く取り組みは行えなかった。	今年は途中からオレンジカフェの開催も再開され、取り組みとしては利用者により良いサービスが提供できた。今後も同じように開催されることが望ましい。	今後もオレンジカフェを通して、地域の色々な方に立ち寄って頂けるような取り組みを行っていき、その際に小規模多機能の取り組みや環境についても発信して行ける様、努力していきたい。
C．事業所と地域のかかわり	職員が地域の行事に参加して、地域の方との交流を深めることにより、小規模多機能の役割などを理解してもらうようにする。	地域との関わりについても、コロナウイルス感染症などの影響もあり、積極的な関わりを持つことはできなかったが、前年度に比べ、中止していたイベントなども開催できたことから、少し地域の方々との交流を行えることも行えた。	色々な取り組みなどは、コロナウイルスの5類移行後は徐々に日常を取り戻してきた。しかし、完全に以前のように戻ったわけではなく、感染対策等も並行して行われていた。今後は少しずつ、地域との関わりが増えていく事を期待したい。	オレンジカフェなどは開催できたが、それ以外の部分に関しては不十分なことも多くあった。来年度は明確な目標を立て、外出支援や地域行事などへの参加支援を通し、山の田地域において事業所としての役割を果たしていきたい。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域清掃の参加を継続し、管理者だけでなく、他の職員も参加できるようにし、地域の方と馴染みの関係を築けるようにする。オレンジカフェなどの地域の行事に積極的に関わる様にする。	今年度は異動してきた職員も多く、地域の清掃などの参加はほとんどできず、地域の方と馴染みの関係も中々築けなかった。 管理者、職員が大幅に入れ替わったことで、今までになかった地域からの利用者の獲得など、地域に触れていく事が増加した部分もある。	今までは同一建物のサ高住の登録者が多かったが、それ以外の地域に住まれている利用者が増えたことは、地域という部分においては拡大し、より地域の利用者を支えることができている。	外部の利用者の登録が多くなったことで、必然的に地域に出向くことは多くなった。来年度は当事業所だけで問題を抱え込むのではなく、横の繋がりを強化しながら地域全体で利用者本人を支えて行けるシステム作りを行いたい。
E．運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議を開催していく。小規模の職員が積極的に会議に参加して地域の方の馴染みの関係を築き、会議で発信できるようにする。	今年度は運営推進会議の開催は行えた。1度、コロナウイルス感染症の拡大があり、別の日程で調整させて頂いたが、今の所は順調に会議の開催は行えている。しかし、他の職員が会議に参加し、意見を発信していくということはほとんどできなかった。	運営推進会議の開催は、今年度はほぼ従来通り行う事ができた。しかし、運営推進会議の内容について、事業所の取り組みや実際の状況等を詳しく知ることは出来ない部分があった。もう少し事業所のことが分かるよう工夫してほしい。	小規模多機能の職員の参加は、人員の調整なども行いながら今後も参加出来るよう、調整を行っていく。また、運営推進会議において、参加者が小規模多機能の取り組みや環境が分かりやすいように示していく努力を行っていく。
F．事業所の防災・災害対策	年2回の防災訓練時、地域の方にも参加して頂くようにする。自然災害発生時についても、どのような経路で非難するのかを職員が把握し、地域の方にも流れを知って頂くようにする。	年2回の防災訓練は例年通り行えている。地域の方の参加、地域の方に流れを知って頂くということに関してはできていないことが多かった。今年度はBCPの作成等、実際に災害が起きた時の対応についてケアタウン山の田内で話し合う機会は多く作ることができた。	以前は防災訓練に民生委員として参加したことがあったが、コロナウイルス発生以降、そのようなことはなくなった。2024年は年明けから震災が発生したり、防災・災害に対する備えは重要だと感じる。	防災訓練は毎年2回行っているが、その中で実際に地域の方や民生委員の方にも参加して頂き、災害が起きたときの対応を地域の方と話し合っていく事で、緊急時における事業所としての役割を明確にしていくことも必要。